

養護老人ホーム 聖ヨゼフホーム (奈良)

「どんな人も断らない」

新施設で法人理念を実践

奈良県御所市の社会福祉法人カトリック聖ヨゼフホームは養護老人ホーム「聖ヨゼフホーム」の3期・3年弱に及ぶ建て替え工事を終え、10月に新施設をスタートした。4ユニットで受け入れる利用者像を分け、法人理念「どんな人も断らない」福祉を实践する。一方で、養護老人ホームをめぐるのは資金、補助金不足で建て替えが難しい状況も生じている。(榎戸新)



利用者と談笑する福井修平副施設長

新施設は木造平屋で床面積2955平方メートル。定員52人(短期入所含む)。時間も費用もかけて前と同じ場所に建てることこだわった。「同敷地内に幼稚園があり高齢者と園児の交流を絶たないため」(奥本孝史施設長)

1ユニットは13、14人で、「V」の字の形になるユニットを二つつづつた。職員は中央にいれば両側を見渡せ、利用者は部屋から顔を出せば職員が見えるので、それとなくお互いが安心できる。施設全体は彩光にあふれ開放的で庭園もある。ユニットは和モダン、南フランス風、オーストラリア風と意匠が違い、施設にありがちな単調さを排除。談話スペースや随所にいすを置いて会話が



新施設の玄関。シンボルのもみの木(中央)を植樹した

できる環境をつくった。ほかにも幼稚園の保護者や地域の人がかつづける本格的なカフェをつくり、来春から食堂で同じ献立を園児に提供し「食育」にも取り組む。

建て替え問題

新施設の事業費は7億

平岡毅総合施設長は「13年前にオーストラリア研修で感銘を受けた、高齢者の住み心地や職員の動線を考えた施設づくりを意識した」と話す。施設は介護保険(特定施設入居者生活介護)の指定を受けており、2ユニットで要介護高齢者を受け入れる。要介護者向けの機械浴も備えている。残る2ユニットは精神疾患や認知症のある高齢者と、比較的元気な高齢者に分けて受け入れ、利用者の状態や特性に合った対応ができるようにした。

全国老人福祉施設協議会の養護老人ホーム建替資力推計(17年)によると、1施設当たり建て替えるに最低9億1000万円から、3億7000万円。別の調査では建て替える・大規模修繕が必要施設219に対し、その予定がない施設は122に上り、その主な要因は資金不足とされる。

養護老人ホームは自治体のいわゆる「措置控え」に加え、一定以上の収益を翌年度に繰り越せないため、建替資金を貯めるのは容易でない。そのため施設からは補助金の充実を望む声は大きい。しかし平岡総合施設長は「補助金の要望も大事だが、我々も福祉的な専門性の質を高め、セルフティーネットとしての機能を果たさないといけない」とし、新施設で高齢者福祉の原点と地域共生社会づくりの実践に力を注ぎ、養護老人ホームの未来を切り開いていく。